令和８年度　第３回飛騨市公共施設在り方検討部会　議事要旨

日　　時	令和 8 年 8 月 26 日（水）16 時 01 分～17 時 58 分
場　　所	飛騨市役所　西庁舎 3 階　大会議室
出席委員	有識者（１名）、各町の区長会長（４名）、専門委員（市内各種団体推薦者８名） 計　１３名
関係部署	財政課　土田治昭課長 総合政策課　下通剛課長 まちづくり観光課　竹田慎二課長 スポーツ振興課　中垣浩太郎課長 河合振興事務所　川邊哲生次長 宮川振興事務所　清水則久所長 神岡振興事務所　地域振興課　麻生貴秀課長
事 務 局	建築管財部　田中義也部長 管財課　西田博和次長兼課長、澤田充弘課長補佐兼係長、渡邉康智主幹
主な議事	・優先順位の考え方について（全体） ・優先順位の考え方について（宿泊施設①：ホテル・旅館系施設） ・宿泊施設①の位置付けについて（ホテル・旅館系施設） ・優先順位の考え方について（宿泊施設②：キャンプ系施設） ・宿泊施設②の位置付けについて（キャンプ系施設） ・自由討議 ・宿泊施設の方向性について

議　事　要　旨

【事務局説明事項】

①飛騨市内の宿泊状況について　資料 No 1

②山之村キャンプ場施設について　※資料当日配布

優先順位の考え方について（全体）

【結論】

⑴　施設の方向性を検討するため、前回部会と同様、定量指標（市負担額の優位性、当初整備事業費の多寡、利用者数・利用頻度）と定性指標（代替となりうる施設の有無、市民生活における必需度、地域経済への影響、その他）の 2 軸により評価することを確認した。

⑵　宿泊施設については、性質に応じて次の 2 分類に整理し、このカテゴリごとに比較・審議した。

✦宿泊施設①：ホテル・旅館系施設（4 施設）

まんがサミットハウス、ホテル季古里、やまびこ館、板倉の宿種蔵

✦宿泊施設②：キャンプ系施設（5 施設）

なかんじょ川、アスク山王、ナチュールみやがわ、流葉オートキャンプ場、山之村キャンプ場

【委員意見】

⑴　宿泊施設については、民間施設が代わりを担ったり公の施設の民間譲渡を検討したりすることが可能であることから、特別な理由がない限りは、市が維持し続ける必要性は低いとの意見が多く見られた。

優先順位の考え方について（宿泊施設①：ホテル・旅館系施設）

【委員意見】

⑴　やまびこ館

✦　サッカーでの合宿や大会、音楽合宿、スキー客、釣り客などの利用があり、一定の宿泊需要に応えていることが確認されたが、公の施設として維持する必要性は低いとの見方が示された。

✦　地理的には、ホテル季古里との代替関係が認められるとの説明があった。

✦　地元での宴会や法要等での利用も紹介されたが、市民生活や地域経済への影響は少ないと整理された。

⑵　板倉の宿　種蔵

✦　古民家を活用した特色ある宿泊施設であり魅力も高いが、公の施設として維持する必要性は低いとの見方が示された。

✦　これまで運営者が定着してこなかった背景から経営的な難しさが指摘され、指定管理料に頼らざるをえない施設であるとの認識が示された。

✦　市民生活や地域経済への影響は少ないと整理された。

⑶　ホテル季古里

- ✦ 古川ふれあい広場の近隣でサッカー大会・合宿等の受入れを担い、古川町内の宿泊施設が減りつつある状況では一定の必要性が認められるとの声があったが、他方で、公の施設として維持する必要性は低いとの意見も見られた。
- ✦ 受入能力に差はあるものの、やまびこ館との代替関係が認められるとの見方が示された。
- ✦ 繁忙期においては市内宿泊施設全体が満室になるため施設の必要性が高まるが、閑散期には他施設での代替が可能であると説明された。
- ✦ 市民生活や地域経済への影響は少ないと整理された。
- ✦ 立派な施設であると評された一方、設備負担が大きいことへの懸念も示された。

⑷ まんがサミットハウス

- ✦ 鮎釣り客、漫画目的の宿泊、声優塾合宿に加え、同窓会や法要における遠方の方の宿泊利用が説明されたが、鮎釣り客の利用については季節が限られるとの見方もあった。
- ✦ 民宿等の代替施設が近隣に一定程度存在することが確認された。
- ✦ 図書室の機能自体は他施設への移転も可能との認識が見られた。
- ✦ 市民生活や地域経済への影響は少ないと整理された。

宿泊施設①の位置付けについて（ホテル・旅館系施設）

【結論】

⑴ 事務局が作成した定量指標（縦軸）の評価をベースとしながら、委員が定性指標（横軸）に関して施設ごとに議論を進めた結果、施設の位置付けについて別紙（優先順位配置図）のとおり整理した。

優先順位の考え方について（宿泊施設②：キャンプ系施設）

【委員意見】

⑴ 流葉オートキャンプ場

- ✦ 周辺にあるスキー場、温浴施設、人工芝グラウンドとの相乗効果に加え、近隣の民間宿泊施設への経済波及効果についても認められるとの意見があった。

⑵ なかんじょ川施設

- ✦ 土砂災害特別警戒区域に位置していることから、安全面への懸念が示された。

⑶ 各施設共通

- ✦ 市外からの利用者が大半であり、代替となり得る施設は市外に多数存在するとも言え、全体として、市が所有し続ける必要性は低いとの見方が多く示された。
- ✦ 地域経済への影響についても限定的との見方が多かった一方、施設によっては近隣施設との一体利用や集客上の意義が指摘された。

※ 審議を進める中、評価の足並みをある程度揃える方向で整理されたため、途中からは個々の施設への言及が減少している。

宿泊施設②の位置付けについて（キャンプ系施設）

【結論】

⑴　定性指標（横軸）の評価のうち、代替となり得る施設の有無、市民生活における必需度、地域経済への影響の 3 項目については、施設間で大きな差異が見られないことから横並びの評価としつつ、流葉オートキャンプ場については、周辺施設との相乗効果等を踏まえ、その他の項目として評価を少し上げる形がとられた。

⑵　事務局が作成した定量指標（縦軸）の評価をベースとしながら、委員が定性指標（横軸）に関して議論を進めた結果、施設の位置付けについて別紙（優先順位配置図）のとおり整理した。

自由討議

【委員意見】

⑴　定量指標については、収益性・生産性等の視点も取り入れた方が良いのではないかとの提案があった。

⑵　限界集落に立地する施設が廃止された場合、地域の活力が更に失われることへの危惧が示され、地域への影響についてもある程度勘案して評価する必要があるとの考えが見られた。

⑶　施設を必要性だけで論じるのではなく、公の施設として維持すべきものか否かの観点を持ち、譲渡等によって民間にその役割を引き継ぐ選択も念頭に議論すべきとの意見が見られた。

⑷　廃止一辺倒ではなく、民間活力を活かす方向で、積極的に民間譲渡、貸付などを検討することが大切であるとの意見が多く見られた一方、市民利用が少ない点や今後の負担増を踏まえ、譲渡できない場合は廃止を断行することも必要ではないかとの見方もあった。

⑸　敷地内に建物が多い場合、数を減らすなどの縮小も選択として視野に入れるべきとの意見が出された。

宿泊施設の方向性について

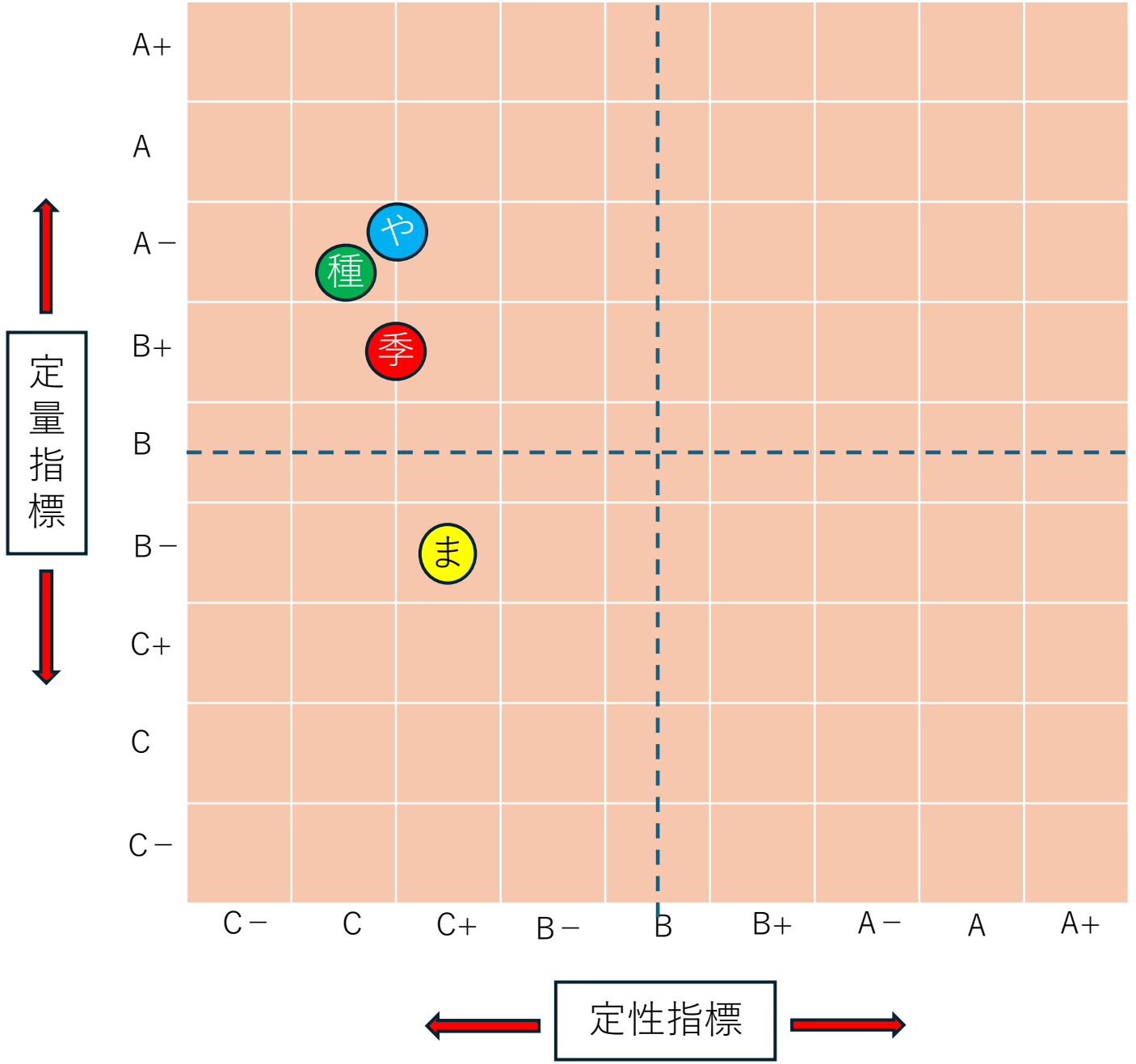
【結論】

各施設の具体的な方向性（継続・縮小・廃止・民間譲渡等）を決定するための進め方については、全 20 施設の位置付けを全て評価した上で、全体を一括して議論することを確認した。

宿泊施設①

優先順位配置図

資料No３



- まんがサミットハウス
- ホテル季古里
- やまびこ館
- 板倉の宿種蔵

宿泊施設②

資料No５

優先順位配置図

